

玉原湿原に穴を開ける犯人を追って —カメラトラップと湿原植物食害調査報告—

利根沼田自然を愛する会

<目的>

ここ数年、玉原湿原に片足大の穴が幾つも掘られ、ミズバショウ等の葉が、根際から大規模に食べられるという事態が頻発している。

穴を開ける動物の正体を捉えるため、当会では 2011年から自動撮影定点カメラを湿原に設置した。また 2012年には、採食動物の違いによってミズバショウの食痕が異なることを踏まえ、動物の活動域を知るため、各生育地における食害状況調査も実施した。

<結果>

○カメラトラップが捉えた動物はホンシュウジカであった。

2012年の6月23日と7月2日に同じ個体と思われる姿が写っていた。



このことより、玉原では数年前から頻繁にホンシュウジカの姿が目撃されていたが、シカが湿原を掘り、植物の根茎を食べている可能性が判明した。

○ミズバショウの食害状況調査結果

湿原植物のミズバショウ、オゼタイゲキ、コオニユリなどの食痕は、根際から上を全て食べられている形と、茎や葉脈の太いところを残して食べられている形の違いがある。

根際から全て食べる形の食痕は、湿原の穴開けが始まった時期と同じころから観察されるようになったので、ホンシュウジカによる食痕と考えられる。それに対して葉の比較的柔らかいところを



(ミズバショウの地上部全部を食べた形)



(ミズバショウの葉脈を残して食べた形)

を食べ
ているの
は、ツキ
ノワグマ
であろう
か。

そこで
玉原に生
育してい
るミズバ

シヨウに関して、この二つの食痕がどのように観察されるか、2012年9月16日に調査した。それが下の図である。



<考察>

上の図から分かるように、シカの食痕は玉原湿原のみであり、クマが残したと思われる食痕はミズバショウ生育地全体に残されていた。このことから、アンブレラ動物として玉原に生息しているクマは、全地域に生活圏を確立していることが窺え、新参者で個体数の少ないシカは、車道や犬飼育地に近い所のミズバショウ生育地は避けて採餌していると思われる。また食痕の違いは、草食性のシカが全体を餌とするのに対し、雑食性のクマは比較的柔らかいところだけを食べるためだと考えられる。

近年外来動物などによる農作物被害が度々報道されるようになったが、ここ玉原でもシカやイノシシといった新参者が度々確認されるようになった。玉原湿原ではミズバショウ、オゼタイゲキ、コオニユリ、ゴマナなどの植物が従来からも生息動物の餌になっているが、今後はこれら植物の食害状況を継続観察し、被害が甚大になった場合は対応策を検討しなければならなくなると考えている。

また植物への影響と合わせて、ヤマビル搬入の可能性も大きくなっているので、当会ではこの点も注意深く見ているところである。

ところで今回の調査により、調査目的とは離れるが玉原におけるミズバショウ生育地が限定されていることが判明した。ミズバショウ生育適地と思われる場所はこの地のいたるところにあるが、限られた所にしか生育していないということが何を意味しているのか、今後検討してみたい課題と考えている。

<キーワード>

自動撮影定点カメラ、食害調査、食痕の違い